

## 69 野口英世生家(三ツ和・前田)

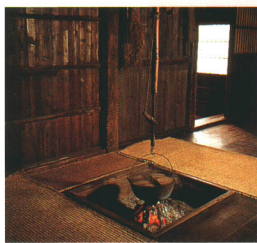
医学上、輝かしい業績を残した野口英世博士は、明治九年十一月九日三城瀉に生まれました。その生家は博士の遺品と共に現在財団法人野口英世記念館で、大切に保存されています。建物からは文政六年(1823)の棟札が出ており、茅葺屋根の平屋建で、猪苗代地方における当時の典型的な貧農の家屋ですが、博士が左手に火傷を負った囲炉裏、上京の際に決意文を刻んだ床柱などが当時のまま残されていて、その人間像を考える上で極めて価値の高いものです。



上京に際し床柱に刻んだ決意文  
「志を得ざれば再び此の地を踏まず」



生家



幼少の時、火傷を負った囲炉裏



さんかく

## 70 算額(中小松・西浜)

学問の神様菅原道真公をお祀りしている小平瀧天満宮には、明治初期に和算家が自己の作った数学の問題や解答を書いて奉納した算額があります。その内容は代数・連分数・差々数列・整数などの問題で数学的価値が高く、また彩色された図形は美術的にみても高い価値があります。

(町指定重要文化財)



一中央図形の題意一

今図のように正四角錐がある。中に全球・大球各1コ、小球4コが入っている。全球の直径、小球直径それぞれ若干のとき大球の直径はいくらか。

福島県和算研究保存会発行「福島県の算額」(1989.8.30)より

けいべんてつどう

## 71 なつかしの軽便鉄道(※緑の村管理センター 長田・東中丸)

大正二年から昭和四十四年まで川柵駅より沼尻駅までの15.6kmを46分で走っていた軌道で、当時は唯一の交通機関として、沼尻鉱山の硫黄や温泉の湯治客を運んでいました。当初は馬車でしたが、間もなく蒸気機関車・ガソリンカー・ディーゼル機関車となり、昭和二十八年から廃止まで営業していました。

機関車および客車は、現在緑の村管理センターに展示されています。



内野を走るガソリンカー



沼尻に停車するディーゼル機関車

沼尻鉄道沿線にあった駅

川柵～白津～内野～会津下館～萩窪～白木城～会津樋ノ口～名家～酸川野～木地小屋～沼尻